

<30-04>

<p>課 題 名</p>	<p>需要に応じた水田農業の推進</p>	<p>ものづくり・ 販路づくり</p>	<p>中丹東農業改良普及センター 中丹西農業改良普及センター</p>
<p>(1) 普及指導事項（評価対象） 排水対策等による特産小豆の生産安定化</p>		<p>(2) 普及指導対象 大規模機械収穫生産者 1 1 組織・ 1 戸 （うち重点対象生産者 3 組織）</p>	
<p>(3) 活動内容と成果</p>			
<p>・小豆の作付予定ほ場の排水や雑草などの状況を予め巡回して確認し、小豆の低収の要因となっている原因を検討した結果、排水など取り組むべき対策を明確化し、共有できた。</p> <p>・基本栽培技術（特に排水対策）の徹底を図るため、技術情報の発行とともに重点対象を選定し、新たに導入する排水対策を提案、排水対策展示ほ場を設置した。その結果、生産者に基本栽培技術（特に排水対策）の励行が進んだ。</p> <p>・重点対象とした生産者で取り組んだ弾丸暗きょ^{*1}などの新たに提案した排水対策により、昨年度に比べ小豆の収量が向上した。</p>			
<p>(4) コメント</p>		<p>(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等</p>	
<p>① 特産小豆の収量安定化のため、圃場の排水対策に取り組んだのは適切な課題設定であると考えます。圃場の立地条件により、過湿要因の排除方法が、営農レベルで可能であるのか、抜本的な圃場整備が必要なのか切り分け、排水対策の技術励行が増収・増益に見合うものなのか確認が必要ではないか。</p> <p>② 意識改革（生産意欲の向上）については成果指標に含めてはどうか。</p>		<p>① 地域、集落等で水田の状況が異なりますので適切に切り分けて対応してまいります。</p> <p>また、排水対策実施の取組により、増収・増益が実現、さらに生産意欲が向上、取組が広がっていくことをもって確認していきたいと考えます。</p> <p>② 新たな取り組みを実施する生産者数を成果指標に盛り込むなど計画に入れ込めるよう検討しました。</p>	

(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等
<p>③ 対象者、対象の圃場ごとに伸び率が異なると思われるので、排水対策の他に増収に至る要因があるかについてもヒアリングする等、複数の要因を探る取組も必要と考えるがいかがか。</p> <p>④ 高級な小豆産地を構築するために、排水対策等のインフラ整備という観点において、関係機関と連携し課題設定・課題解決が必要となる。様々な面での整備など、重点的な取り組み体制を構築するとともに地域のあるべき将来像を行政や流通組織と共有するような取り組みが必要ではないか。</p> <p>⑤ 特産小豆の収量安定化のため、圃場の排水対策に取り組んだのは適切な課題設定であると考えます。小豆栽培の収量、品質の向上は今後の地域農業の大きな目標となると考えられるので、生産量の安定とともに、小豆の所得目標などを掲げて品質向上やブランド化を視野に入れた取り組みをしてはどうか。</p>	<p>③ 本計画では排水対策を中心としていますが、その他の要因についても多面的な指導を検討していきたいと考えております。その際、排水対策では、各集落や土地条件に応じて営農レベルでの排水対策がよいのか、抜本的なほ場整備が必要かなど多数の選択肢を持って検討していきたいと考えます。</p> <p>またその他の要因（雑草、獣害など）もヒアリングの際に確認しており、次年度については排水以外の要因についても今年度よりも重点を置いて対応していきたいと考えています。</p> <p>④ 広く行政機関やJAなど関係機関とともに将来像を共有しながら、課題解決にむけて話し合いを進めているところです。当地域の小豆は、丹波大納言小豆として実需者からも高く評価されており、さらに需要量に対応できるように産地力の強化に努めて参りたいと考えております。また、集落や地域での将来にわたる土地利用の話し合いを誘導する中で、基盤整備等土木的な取組の合意にもつながることを期待しています。</p> <p>⑤ 農業経営・生活指導指標（平成6年3月京都府農林水産部）に記載の所得目標などを提示し、生産者の意欲を上げていながら小豆栽培を推進していきたいと考えます。すでに丹波大納言小豆としての評価が菓子業界等では定着している中、安定した生産量確保を図っていくことが適当であると考えます。</p>

※1 弾丸暗渠：弾丸の形をした器具で、土中に水が流れる孔を作る排水方法。設置するために土木工事を伴う暗渠に対し、営農段階で設置できる。